

# 歴史教育におけるジェンダーとセクシャリティ

Gender and Sexuality in History Education

担当：篠田裕文（広島大学大学院生）

## ■著者情報

(1)名前：Margaret Smith Crocco

略歴：哲学の学士号，アメリカ文明の修士号並びに博士号取得。複数の大学や高校でアメリカ史を教えた経験を持つ。ティーチャーズカレッジとアイオワ大学の教授を経て，現在ミシガン州立大学教師教育学部の学部長を務めている。また，NCSS や CUFA の議長にも選出されている。

研究テーマ：社会科，教師教育，ジェンダー，教育におけるテクノロジー利用，カリキュラム開発（by Google Scholar）



## ■まとめ

### （はじめに）

#### ○ジェンダーとセクシュアリティというトピックの研究について

- ・ Crocco (2001) 以降，社会科で注目されるが，ごく一部。Crocco (2008) 以降，歴史教育における教授と学習の研究においてわずかに進展。しかし，歴史の学問領域では研究の継続・進展なし。

#### ○ジェンダーの定義とそれがもつ西洋規範

- ・ 定義…Scott (1986) 「歴史分析の有用なカテゴリー」：社会が作る男女の役割，地位，能力，好みの差異を強調
- ・ 定義…Ortner (1996) 『ジェンダーの形成』：社会的構築物としてのジェンダーを指摘する
- ・ 西洋以外のジェンダー分析が woman/man, ジェンダー，女性性/男性性, female/male の概念を議論する  
→社会学者や歴史学者がこれらの異文化的側面（cross-cultural）や歴史的変動性(historical variability)を強調
- ・ Stearns (2015)：ジェンダーを扱う際，非西洋文化への西洋規範の押し付けを継続的に注意すべき  
→本章は Freedman (2002) のフェミニズムの定義を使用&西洋規範（男女は本来同等の価値がある）が反映

#### ○トランスジェンダーと Queer の定義（セクシャリティ関連）

- ・ ジェンダーと同様に，歴史的及び異文化間の変動性(variability)を強調する。（従来の二元論では捉えられない？）
- ・ 定義（トランスジェンダー）…Butler-Wall 他 (2016) 「人々に割り当てられる生物学的起源のセックスに基づく従来の予想とは異なるジェンダーアイデンティティや表現を持つ幅広い人々のための包括的な用語」
- ・ 定義（Queer）…Marcus (2005) 「レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーをコンパクトに（簡潔に）代わるものになっているが，それはまたアイデンティティ以上に親和性(affinity)と連帯性(solidarity)を強調している…中略…Queer は，セクシュアルアイデンティティが柔軟で不安定という考えを目立たせるが，ゲイとレズビアンはその反対を主張していない」（\*論争的な定義）

## 歴史と歴史教育

- ・ 歴史教育を，国家が次世代の自己アイデンティティを支えるナラティブを広める一手段と考えるならば（Epstein, 2008; Mak, 2007），ナラティブ内のジェンダーやセクシュアリティに関する沈黙や物語を考える際に，歴史教育とシティズンシップ教育の関連性も考慮される必要がある

→Sleeter and Grant (2011)：教科書が子どもに提示するイメージは，社会における「正常(normal)」の表現(象徴)である。そのため，教科書内の包摂と排除が，世界に関するメッセージとして生徒たちに伝えられる。

## ○学校の歴史と学問の歴史を分けるべきか否か

- ・切り離し：アメリカ…学校教育の目的とシティズンシップが結合
- ・密接：イギリスや大陸ヨーロッパ（カナダ？）…歴史教授とシティズンシップがあまり関わっていない  
→全員にシティズンシップ教育が必要な K-12, 及び目標と audience が狭まる中等教育卒業後の教育目的が多様なことを考えると、どのレベルでも切り離しには確かな目的があるといえる

## ○意見の不一致の3要因：学校の歴史と学問の歴史を分ける目的について

- ・3要因は、累積的に学校の歴史における「ジェンダーとセクシャリティに関するディスコースの喪失」(Crocco, 2008) に寄与している ⇨ それに関する継続的な研究はなされている。

## ①アメリカの教育改革：1990年代の教育におけるカリキュラムスタンダード運動

- ・歴史スタンダードや、Common Core と Advanced Placement の米国歴史テストなどの論争 (Schneider, 2011; Urist, 2015) が、主流トピックへ  
⇨Himmelfarb (2004) …社会史の興隆と、政治・経済・軍事・知的史の衰微について言及  
学問の歴史が歴史の周辺から中心に、そして中心から周辺へ移行したことを論評

## ②「忘れられた歴史」への関心向上と米国内の人口統計変化による「民族研究」への注目

- ・アフリカ系、メキシコ系、中国系、日系など
- ・脱植民地化の結果、社会文化的な国際状況が変化したことにより、ポストコロニアルやサバルタンの研究に大きな関心が集まっている。(Anzaldúa, 1987; Prakash, 1994)

## ③国家の教育政策の変化により影響を受ける学校の歴史カリキュラム：州から連邦レベルへのカリキュラムコントロールの移行 (Mehta, 2013)

- ・No Child Left Behind legislation 2001 (どの子も置き去りにしない法) は、社会科に費やす時間を減らしつつ、学校内のテストの増加やリテラシーと基本的計算能力に焦点化した狭まったカリキュラムをもたらす。
- ・Common Core の推進は、リテラシーの一部として歴史研究を位置づけることで、社会科をさらに疎外化

## 概念的フレームワーク

- ・過去数十年間、ジェンダーとセクシュアリティを学校の歴史へ組み込んだ変化は、主に政治・経済的变化を焦点化する国家的ナラティブの中に、これらを含めるための取り組みとして捉えることができる  
→これを見とるのが以下3つのフレームワーク：教育における認識論的・方法論的变化を反映している

### ①知識の変容

- ・過去半世紀にわたり各学問分野は、「知識を変容させる」プロセスを経験してきた。(Minnichi (2004))
- ・教育の認識論的・方法論的アプローチと「歴史的意義」のスタンダードの移行には、知識を生み出す際の「位置性(positionality)」や「立場性(situatedness)」のような、社会文化的アイデンティティメーカーの役割が考慮されている。…「ボトムアップからの歴史」等

### ②多文化主義

- ・有名で有色人種の男女を特集した「サイドバー」が教科書に導入された1990年から、K-12の学校教育において、多文化教育の影響が感じられ、ここ10年で多様性の価値が社会でより一般的なものとして広く受容される
- ・Wineburg and Monte-Sano (2008) : 「アメリカの英雄たち」という概念上の多様性の影響を調査し、多文化的考察が、「文化的カリキュラム (the cultural curriculum)」にどの程度入り込んだかの示唆が提示される

…文化的カリキュラムは、「origin stories」に社会化させる学校や大衆文化、その他の手段で循環するナラティブを通して、自身の国家意識を反映している。アメリカにおいて、ナショナルセルフアイデンティティは、民主主義や自由、例外主義、「インクルージョンの探求」と関連付けられている。

→ナショナル・ナラティブに関するより多様な視点（ジェンダーや人種、セクシャリティの違いに基づいた視点）を紹介することは、これらの概念に異議を唱え、アメリカの歴史教育の論争に貢献することになる。

### ③シテイズンシップ教育

・完全なシテイズンシップステータスの達成は、女性とその他の人々にとっての長く不完全なプロセスである。

→人種や民族性、ジェンダー、性的志向(sexual orientation) (Crocco, 2000) は、依然としてアメリカ市民の権利にとって顕著なまま (salient) であり、この現実には歴史教育において様々な形で現れている。

・民主的シテイズンシップのための教育が規定される方法も時間経過とともに変化してきている。

→Dewey (1916) が民主主義を生活様式としてまとめたことから多様性に対するアンビバレンスは明白であるし、進歩主義的な教育者も多様性を限定的なものにしていた。

### レビューと方法論のスコープ

・焦点は題目通り。社会科教育ではなく歴史教育を扱う。教育史研究や実践者向け女性史教授は基本的に省略。

・gender, sexuality, queer, gay, lesbian と共に, history, history education, history teaching and learning, social studies, social studies education などの用語を, 教育・人文科学・社会科学のデータベースや Google Scholar にかける (大半が北米及び英語のもの)

・ウェブサイトもレビューの対象: Facing History and Ourselves, Teaching for Tolerance 等

### 歴史教育とジェンダー

・教育研究者は、教科書内で見落とされ、軽視され、「名目化」され、「サイドバー化」された女性の歴史へ注意を向ける方法を描いてきた

– 1970~80年代…女性の役割や貢献等の省略は、米国と世界の歴史への女性の重要性を過小評価する点を強調

– 20世紀後半…歴史教授や他の学校科目、或いは「学校カリキュラムのジェンダーバランス」(Crocco, 1997,2000,2001 参照) にジェンダーを取り入れるためのアプローチを複数提供する

→インクルーシブ・アプローチによる学生のパフォーマンスへの影響の調査研究、女性を含める教科書研究、女性の歴史の様々な側面に焦点を当てた記事、女性の歴史を教授に関するアイデアとしての小学生用の文献等

・女性の歴史における研究は、公的/私的領域の区別のような、より早期の解釈的枠組みに挑戦してきた (女性の権利運動の第一、二、三波の周期化や米国女性史上の例外主義など)

→女性における交差性の注意に関する欠如から、女性史における交差性の必要性 (Collins, 1991) = アイデンティティ属性 (人種・階級・ジェンダー、セクシュアリティも含む) の相互作用を反映している

・Colley (2015) …第二波フェミニズムを用いて研究

目的: ジェンダー不平等と市民行動への意識を高めるために「歴史的エージェンシー」の概念を使用

・カリキュラム内のジェンダー排除かつ包摂への示唆の研究 (例: Bair, 2008; Hickey & Kolterman, 2006) など

・男性性と世界史教授の問題に関するジェンダーと歴史の研究

・ジェンダーと宗教の歴史に関する研究が見過ごされている (世界史学者は考察するが社会科教育ではほぼ×)

➡ジェンダーと歴史教育に関する研究の目新しさ

: 「人種・階級・ジェンダーの交差性」, 「男性と男性性」

## 歴史教育内のアイデンティティ政治とセクシュアリティの研究

### ○アウトサイダーとしての立場

- ・「あなたでないことを教える」(Mayberry, 1996, p.1) ことは論争的である
  - ：クロッコの立場…LGBTQに関してインサイダーでない異性愛者として本章を書く
- ・Banks (2016)：自身の社会文化的アイデンティティと異なる話題の教授，研究等における著者の立場に疑問
  - －学者（歴史家，人類学者）は常に他者の経験を書く…アウトサイダー：「客観的」立場
  - ⇨ポスト構造主義者やポストモダニストのディスコース…自己のアイデンティティ属性と伝記の集合
  - ＝位置性により制限されている
- ・アウトサイダーとして物事を記述するにしても，アイデンティティ政治が「あなたでないこと」を書くことに関係していることを考慮すると，自己同一化（self-identify）することは適切である。
- ・ジェンダーが歴史的にも存在論的に固定されたアイデンティティとしてより，むしろパフォーマティブなものとして概念化されているときに，アイデンティティ属性が常に問われるべきかに関していくつか主張がある
  - この問題は，「他人の靴に足を踏み入れる」(Rantala, Manninen & van den Berg, 2015)，「歴史的エンパシー」(Endacott, 2010; Endacott & Brooks, 2013)，「他者へ話す」(Alcoff, 1991) という他の歴史教育事象へ触れる

### ○研究の紹介

- ・学問の歴史は歴史教育よりもセクシュアリティに大きな関心を向けている
- ・社会科の広がりの中で，シティズンシップ教育関連でセクシュアリティが取り上げられるが歴史教育にはない（米：Bickmore, Schmidt, Mayo カナダ：Loutzenheiser 北米以外（ヨーロッパやインドが歴史教育×人権教育））
- ・社会科とセクシュアリティに取り組む学者による認識論的・方法論的アプローチの提供例（7つほど）
- ・Schmidt のジェンダーとセクシュアリティの研究
  - …異性愛者の規範的枠組みに合わない教師と生徒の両方に対する平等と包含について主張
  - LGBTQの問題をアメリカ公民権運動の長い伝統の中に位置付けるべきと主張
- ・Doyle (2010)：高校・大学の歴史クラスにおけるセクシュアリティ教授の問題点を指摘
  - …歴史スタンダードにはゲイ解放運動の記述があるが，歴史教師は両親や学校管理者からの否定的反応を恐れているため，それを教えない。
  - 高等学校歴史教師は歴史家と提携し，セクシュアリティというトピックを「基本的な人間の条件」としてカリキュラム内に取り入れるべき。（⇨過去の人々のセクシュアリティについて強制的に沈黙させられ続ける）
- ・Lowe (2013)：セクシュアリティとジェンダーは共通点を有するが，セクシュアリティは，異性愛を標準と仮定していることによってどれほど歴史学問が制限されているのか，を理解できる。

### シティズンシップ教育としてのジェンダー・セクシュアリティ・歴史教育

- ・歴史教師もシティズンシップを教えることを前提にすると，教師はいじめやセクハラ，その他生徒や教師の尊厳を傷つける行為を含む「homophobic hallway」のくだらない話に対応する職業上の責任を有する
  - 過去数年間，歴史教師教育者はジェンダーやセクシュアリティを教師教育コースやプログラムへ導入
  - 学校における多くの歴史教師は，シティズンシップ教育者の役割を意識し，多様な学生の包含と公正を誓う
- ・以下，歴史の教師，そして青少年と関わる成人社会の代表という，社会化の担い手としての教師の役割を言及

### ○LGBTQに関するいくつかの組織の取り組み

- ・LGBTQ トピックを教員養成コースや歴史教育，K-12 の中に取り入れるためにスモールステップを取るいくつかのリーダー的な教育者や教育機関がある。

## ・ゲイ、レズビアン、ストレート教育ネットワーク (GLSEN)

…いじめや暴力の結果、慢性的な学校の常習的欠勤、学業成績不良、心理的難題に伴う教育願望の低下に苦しむ多数の LGBTQ 学生の調査結果を明らかにした

→歴史教育とは直接関係ないかも？

–歴史（英語、数学等）を教える者は、全生徒が学べる環境を作り出す学校共同体のメンバーである。

–歴史教育者がジェンダーとセクシュアリティに関して果たす具体的な役割は、異文化間の比較を提供するだけでなく、ジェンダーとセクシュアリティに関連する争いを歴史化することである

→エメリオ・フリードマン（2012）：同性愛者の関係が不健全で非難の対象となるのは、歴史的に作られたものである。ある時代では、同性愛者の関係がそのような対象とはなっていない。

## ・米国教師教育協会 (AACTE)

…LGBTQ の学生と働く将来の教育者を訓練するための最善策をきめるために、他の組織と共に調査を実施

→組織提携目的：教員養成で LGBTQ の学生が関わる問題やトピックをより含めるプログラムや資料の開発。

## ・他の組織 (the National Center for Transgender Equity, the Queering Education Research Institute)

→学校のすべての大人が LGBTQ の学生に関連する問題に対処するために準備が整え、加えて単に教科の専門家ではなくシティズンシップ教育者として自身の役割を見れば、これらの問題は減っていくかもしれない。

## ○ジェンダーとセクシュアリティに関する教材の紹介

### 結論

・歴史教育においてジェンダーとセクシュアリティに焦点化した研究は不足しているが、そのテーマを必ずしも目的としない研究が、フェミニストの教育理論に重要な概念を多く取り上げている点で肯定的評価ができる

例：agency, メスティーソ意識, 交差性 (intersectionality), 慣習 (praxis), 位置性 (positionality), 異質性 (alterity), 他律性 (heteronormativity), 主観性 (subjectivity), パフォーマンス性, 家父長主義, 白人特権, ハイブリッド性 (hybridity), 状況性 (situatedness), フェミニスト教育学など

・ジェンダー関連の問いは女性のみ, LGBTQ 関連の問いはその個人のみの関与を示すわけではない

→Scott (1986)：社会的アイデンティティのカテゴリーは、人種や階級と同様、権力問題と密接に関連するし、権力は社会に不平等に分布する。そのため、アイデンティティカテゴリーの分布の不公平を無視するのは問題

→Villaverde (2008)：「現実に、不平等、不正義、差別が存在するのは、私たちがそれらを生み出すもの、つまり権力（やそれを操る人）をあいまいにし、不明瞭にし続けているからである

→×歴史教育においてジェンダー、セクシュアリティ、権力、特権、家父長制を「曖昧にし、覆い隠す」

・不平等は教育だけでなく、社会・経済・法・政治的なものであるため、学校では不平等に直面しないが、社会で遭遇する (Buchmann, DiPrete, & McDaniel, 2008)

・ジェンダーに関する国際情勢は、明らかに複雑である (Dolby & Rahman, 2008)

→歴史教育で、女性の地位や課題の議論を拡大することは重要 (Asher, 2015)

・社会正義や真実を語る問題として、歴史教育は、研究課題の一部としてジェンダーとセクシュアリティへのより大きな関心に向け、歴史教育内で頻発する伝統的で限られた過去の偏った見方によって隠される現代の人間の様々な側面を明らかにすることによって、十分に役立つものになる